2014　愛知県立大学スクールソーシャルワーク教職員研修

ニューズレター　No.7（最終号）　2015年3月31日

School Social Work Teacher Training Program Newsletter　発行：SSW 教職員研修事業事務局
（TEL & FAX: 0561-76-8724　tsuboi@ews.aichi-pu.ac.jp）

スクールソーシャルワーク教職員研修参加者の皆さん　年度末日をいかがお過ごしでしょうか。異動の先生がたにおかれましては、あわただしい１日かと存じます。

さて、参加者の皆様には最終レポートも20名のかたから提出いただき、３月27日には冊子にまとめることができました（1名はプレゼンレジュメそのまま掲載）。正誤表の作成や、DVDの制作作業も完成まじかです。半年間にわたる皆様のご協力に心よりお礼申し上げます。以下では、いくつか報告、お願いやら来年度に向けた動きなどを紹介させていただきます。参加者の皆様の口コミによる宣伝が一番確実ですので、同僚、知人の皆様にお声をかけていただければ幸いです。なお、遅くなってしまいましたが、３月７日の修了の集いの記念写真を添付しましたのでご覧ください。

それではみなさん　ごきげんよう！　新年度が、この研修の成果を活かした学級づくり・学校づくりの元年となりますよう、講師チーム一同応援しております。

■　教材集、修了レポート集などは４月８日ごろにお届けします

皆さんにお届けする予定の冊子等は以下の３点です。教材開発の共同研究者としての貢献に感謝申し上げますとともに、ご活用いただければ幸いです。特に、DVDでは、パワーポイント・スライドも16件収録しております。共同開発チームの一員として、ご利用ください。また、追加をご希望でしたら、１～３冊程度は可能ですのでお知らせください。

＊『「スクールソーシャルワーク教職員研修」モデルカリキュラム教材集』（A4判、167頁）
＊『修了レポート集―ソーシャルワークの視点と方法を活かした私の教育実践』（A4判、165頁）
＊DVD：「スクールソーシャルワーク教職員研修」カリキュラム教材／スライド教材／修了レポート集

■　『修了レポート集』の誤植、落丁などへの対応について

お届けする予定の「修了レポート集」には、事例について匿名性への配慮から、執筆者の実名はひかえております。もっとも、修了プレゼンテーションの発表者並びにサブタイトル一覧から、ご自分のレポートをみつけることは容易かと思います。講師チームが手分けして、匿名性の観点から加筆修正したり、誤字脱字を校正しておりますことを了承ください。しかしながら、なお、誤植、落丁などございましたら、お手数をおかけしますが、事務局までご一報ください。正誤表をつくり変えていく形で、対応させていただきます。

■　３月27日に第２回開発事業運営委員会を開催しました

過日、今年度の研修カリキュラム開発事業のまとめの会議を開催しました。連携・後援機関の運営委員である各務泰相談部長（愛知県総合教育センター）、日進市の青山雅道教育長、尾張旭市の

玉置基教育長、瀬戸市の深見和博教育長、長久手市の堀田まゆみ教育長より、それぞれの機関のスクールソーシャルワーク研修への期待と自治体の取り組みの現状が報告されました。大学側の委員は、本年度の本事業の意義と課題について報告しました（事業報告書は、お届けする教材集の巻末に資料として収録されています）。そして、来年度も本学が主催し、引き続き５つの機関の連携・後援事業として進めていくことを確認しました。４人の教育長の皆様には運営委員をご快諾いただくとともに、愛知県総合教育センターについては、各務委員が港特別支援学校校長として転出されることに伴い、神田正美新相談部長と交代されます。こうした新運営委員会体制で、新年度第１回の開発事業運営委員会を４月27日（月）に開催することとなりました。なお、３月27日の会議の様子は、翌朝のNHKテレビでも放映され、関心の高さが窺えます。動画は以下のURL参照：

http://www3.nhk.or.jp/tokai-news/20150328/3476161.html

■ 「実践検討会」への期待は大きい―参加者アンケートの結果

３月７日に、山本理絵講師（本学生涯発達研究所長）より、今後、スクールソーシャルワーク教員研修参加者の皆さんによる「実践検討会（仮称）」を開催していくことへのアンケート調査がありました。当日の参加者全員から回答があり、「参加してみたいと思う」が８４％（16人）と多数を占めました。今後、開催に向けて参加者の皆さんとともに検討していきたいと思います。詳細は以下の通りです。

■アンケート実施日　2015年３月７日
■回収数　１９
■実践検討会への参加

参加してみたいと思う	１６名
どちらともいえない	３名
いいえ	０名

■都合のよい日時　（１９名回答　複数選択）

金曜日の夜	５名	
土曜日の午前	９名	（うち土曜日午前のみ可　１名）
土曜日の午後	１２名	（うち土曜日午後のみ可　５名）
夏休み	６名	（うち夏休みのみ可　１名）

■検討会の内容について
・ケース会議のやり方や目標の設定のしかたをもっと学びたい。
・事例検討のあり方を研究したい。
・具体的な事例での事例検討と経過を学びたい。
・SSW的な見方を先生方に伝えていく方法を学びたい。
・各学校でどのような課題があり、先生方がどのような実践をされているのか知りたい。

■ 来年度の研修プログラムの素案―（独）教員研修センターに提出、採択された案

時期等	内　　容	目　　的
第1回 8月	①開講講義：本研修のねらいと研修の方法について 〔講師〕研究科長 ②開講演習：教育現場で起きている諸問題と本研修への期待	本研修が双方向の関係性によるカリキュラム開発であることを理解していただくとともに、参加者の問題意識を表明する。
第2回 9月	③入門講義(1)：子どもの発達の危機と教育学の視点 〔講師〕望月　彰 ④入門講義(2)：ソーシャルワークの視点と価値観 〔講師〕宇都宮みのり ⑤事例演習(1)：グループ討論(問題意識の共有化) 〔講師・ファシリテーター〕スクールソーシャルワーカー等の実践経験者（以下の演習において同様）	子どもと教育をめぐる基本問題に対して、教育学及び特に社会福祉学の視点を提起し、参加者の問題意識の共有化を図る。
第3回 10月	⑥講義(1)：ソーシャルワークの方法―アセスメント 〔講師〕村田一昭 ⑦事例演習(2)：不登校事例 ⑧講義(2)：講評と不登校問題についての理論的整理 〔講師〕山本理絵	問題発見とアセスメントに関するソーシャルワークの方法を学び、不登校事例に適用して理解を深める。
第4回 （合宿） 第5回 11月	⑨講義(3)：ソーシャルワークの方法―ケース会議 〔講師〕吉川雅博 ⑩事例演習(3)：いじめ事例 ⑪講義(4)：講評といじめ問題についての理論的整理 〔講師〕堀尾良弘 ＊　＊　＊ ⑫講義(5)：貧困問題の理解とソーシャルワーク 〔講師〕野田博也 ⑬事例演習(5)：貧困問題事例 ⑭講義(6)：講評、貧困問題と教育の課題 〔講師〕坪井由実	ソーシャルワークの原理に基づくケース会議の運営方法を学び、いじめ・非行事例や貧困から生ずる諸問題のとらえ方、対応方法等について理解を深める。また、合宿により参加者の交流を深め、研修終了後の協同につなげる。
第6回 12月	⑮講義(7)：ソーシャルワークの方法―プランニング 〔講師〕渡邊かおり ⑯事例演習(6)：児童虐待と家庭支援事例 ⑰講義(8)：講評および学校と地域の連携論 〔講師〕内田純一	問題解決に向けた具体的な対応方法を学び、地域リソースを活用した保護者対応など家庭支援のあり方を学ぶ。
第7回 1月	⑱修了演習：ソーシャルワークの視点と方法を活かした今後の実践の展望 ⑲講義(9)：研修の成果と修了生への期待 〔講師〕愛知県総合教育センター相談部長 ⑳修了式	研修で学んだ成果を発表し合い共有化することで、今後の教育実践に活かしていく見通し等について確信を得る。

新年度のスクールソーシャルワーク教職員研修のプログラム素案は、今年度の反省にたって、以上のように企画しております。スタートを８月とし、翌年１月終了を予定しております。事例演習を第２回から開始し、問題事例はしぼりこんでいます。毎回演習と共に「ミニレクチャー（30分程度）」を社会福祉学と教育学の両方の角度から組み入れています。社会福祉の視点と方法をより深めていくことができるよう構成に配慮しました。

まだ確定ではありませんが、第１期共同開発者の皆様におかれましては、同僚の皆さんなどにおすすめくださる際に参考にしていただければ幸いです。なお、公式の募集要項のホームページへのアップは５月末ごろを予定しています。

■　*２年目の取り組みは、新しい事務局体制で始まります*

２年目の本事業は、明日から、望月彰研究科長を中心に、事務局長は渡邊かおり講師（地域福祉論、社会福祉学）に交代しスタートします。上述のごとく、初年度の事業に関する事務（誤植等の集約など）などについては、しばらく坪井が担当しますので、よろしくお願いします。